

平成 25 年度 第 2 回文系チャレンジ講座を実施しました (H25/7/17)

平成 25 年度第 2 回文系チャレンジ講座が、2013 年 7 月 17 日、「高校生のための金融論入門～将来のための金融論～」をテーマとして、本学経済学部の小笠原悟准教授によって行われました。遠隔配信された大分雄城台(おぎのだい)・大分鶴崎・大分商業・安心院(あじむ)・日田の 5 校(166 名)と、来学した大分南・三重総合の 2 校(48 名)を合わせて、計 214 名の高校生が受講しました

今回の講座は「金融論って何？なんかむずかしそう。いえいえ、金融論とはお金のことを学ぶ学問です。お金にはモノやサービスを購入するときに仲介する役割を持つとても大切なものです。その他にも将来使うために貯めておく機能、あるいは円やドルというように、モノやサービスの価値の尺度を示す機能を持っています。また、お金は人間の体にたとえると血液です。血液の流れが止まってしまうと臓器が動かなくなるように、お金の流れが滞ると経済活動は鈍化してしまいます。この授業ではお金の機能を学ぶとともに、どのような形で経済に役立っているか、そのしくみを理解します。」と金融について説明しました。

始めに小笠原先生は「君たちは 50 年後何をしているだろうか。」と、問いかけました。受講生から「仕事を終え、のんびりと暮らしていると思う。」と、人生の余暇を楽しんでいるであろうという答えが返ってきました。

身近でありながら、普段は気づかない「お金」の役割、聞いたことはあっても詳しい内容については把握できていない株式や証券、投資といった事柄についてわかりやすく説明をしました。特に日本と、欧米を中心とした諸外国を比較すると金融資産の保有の方法に大きな違いがあることや国債や年金についても説明され、受講生は意外な思いを抱き、将来の自分を想像していました。そして、個人のレベルにおいても国のレベルにおいても、「現在の資産運用のままでは将来の経済的安定が確保できない恐れがある。自分たちの思い描いている将来は果たして手に入るのだろうか。」と、小笠原先生の問いかけが印象的でした。

私たちの暮らしと切っても切り離せない「お金」その運用や流れを自分たちで担うことができるということ、そしてその運用の方法を正しく知ることが、私たちの将来を安定へと導くことになるのではないかと受講生は重く感じ取りました。

受講後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」(92%)、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ、「教員は真剣に取り組んでいた」(98%)、「授業内容はわかりやすかった」(84%)、「板書(スライド)は適切だった」(93%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んだ」(86%)と高い評価結果がでました。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」(67%)、「映像はよく見えた」(91%)という結果がでました。一部の高校で、音声が聞きづらかったと指摘があり、終了後、改善をしました。

受講生の具体的な声として、「とても有益な授業であった。経済主体別資金過不足表は黒字か赤字かが判別しやすい。」「いつまでもあると思うな、親と金。納得した。金融は複雑であることがわかった。」「内容が濃く難しかったが、充実した授業であった。」「大学の授業を垣間見ることができ、年金や国債などについて、目を背けてはいけなかった。」「他校生の様子を見ながら学ぶことができ楽しかった。」など多くの感想が寄せられました。

